Blitzen Times

Vol.92

April.2025

Race Report

6.8　Coupe du Japon MTB 白山XCO
6.8　Jプロツアー　石川ロードレース

沢田時、白山XCOで鮮やか2勝目

宇都宮ブリッツェンの沢田時が、石川県白山一里野温泉スキー場で開催されたMTB Coupe du Japon XCOを制す。ロードで鍛えた持久力が冴え渡り、強豪を抑え圧巻の走りで頂点に輝く。

初夏の風が吹き抜ける2025年6月8日(日)、石川県白山市・白山一里野温泉スキー場特設コースにて、MTB Coupe du Japon 白山一里野国際XCOが幕を開けた。午前中から多彩なカテゴリーが熱戦を繰り広げ、13時30分、男子エリートクラスがスタート。宇都宮ブリッツェンのエース、沢田時選手が鋭いスタートを切る。

前日のXCCでは3位に終わった沢田。レース後のコメントからは、久しぶりのマウンテンバイクレースに体が追いついていないものの、脚に刺激が入ったと前向きな様子がうかがえた。レース前、「昨日の反省を活かし、ロードで培った持久力で冷静に戦いたい」と語り、チームとしても同日開催のJプロツアー石川ロードレースでのダブル勝利を狙う意気込みを明かした。

気温は25度前後、雲に覆われた空の下でレースがスタート。コースは3・5キロを8周する約30キロの長丁場。ロードレースで鍛えた沢田にとって、持久力勝負が追い風となる。

スタート直後、10分20秒30で2番手通過。ライバル副島達海（TRKWorks）が10分19秒97で首位をキープ。2周目には沢田、副島、平林安里（TEAM SCOTT TERRA SYSTEM）の3人が先頭集団を形成。やがて平林が後退し、沢田と副島の一騎打ちが展開される。

3周目も両者の激しいバトルが続くが、4周目に入ると沢田が次第にリードを広げ始める。副島とのタイム差は23秒18に。5周目終了時点では、トップの沢田と2番手との差が50秒以上にまで拡大する。

以降、沢田の独走態勢が続く。落車やトラブルに細心の注意を払いながら、安定したペースで周回を重ね、終盤までラップタイムを10分台で維持。右手を高く掲げてフィニッシュラインをトップで駆け抜け、今季マウンテンバイク2勝目を華麗に飾る。

レース後のインタビューで沢田は、「昨日の疲労が残る中でも、中盤からは体が軽く感じた。持久力が活きたレースだった」と振り返り、ロードレースと日程が重なる中で、チームのサポートやファンの応援にも感謝の言葉を述べた。

結果は、1位沢田時（宇都宮ブリッツェン）1時間25分47秒93、2位副島達海（TRKWorks）1分27秒81差、3位平林安里（TEAM SCOTT TERRA SYSTEM）2分27秒12差と、圧倒的な勝利となった。

今後の展望として、沢田はマウンテンバイク全日本選手権やロードレース全日本選手権への意欲を語り、ロードとマウンテンバイクの両立を目指す姿勢を強調。今後のさらなる活躍に期待が高まる。

石川ロードレース ブリッツェン新星も躍動

Jプロツアー第7戦 石川ロードレース。宇都宮ブリッツェンはチームランキング首位の意地を見せ、岡篤志が3位入賞。若手も健闘し、全日本選手権へ向けて好調な仕上がりを印象付けた。

6月8日(日)、福島県石川町・浅川町周回コースでJBCF Jプロツアー第7戦「石川ロードレース」が開催された。この大会は今年で22回目を迎える伝統のレースで、1周13・6キロ×10周・総距離136・0キロの過酷なコースが特徴。ラスト4キロが上り坂となり、起伏の激しい地形の中で「本当に強い選手が勝つ」と評される大会だ。

ブリッツェンからは谷順成、岡篤志、フォン・チュンカイ、ルーベン・アコスタ、武山晃輔、菅野蒼羅、阿蘓来夢、秋元碧の8名が出場。チームは現在Jプロツアーランキング1位をキープし、今季加入の若手も注目された。特に阿蘓来夢は6月1日に契約したばかりで、一輪車競技の世界チャンピオン・日本チャンピオンの経歴を持つ。また、フォン・チュンカイは4月末に右手中手骨を骨折し戦線離脱していたが、このレースで復帰を果たした。

レース前の鈴木真理監督は「ツール・ド・熊野」「ツアー・オブ・ジャパン」といったハードなステージレース後の息抜き的な位置づけとしつつ、2週間後に控える全日本選手権を最大の目標に掲げ、「今回は若手選手の成長や脚の試しが主な狙い」と語った。菅野は「学法石川高校時代から慣れ親しんだコース。プロになってこのレースを走るのは夢だった」と意気込みを語った。

スタートは114名。序盤からアタックが続出し、1周目には12名のエスケープが形成。ブリッツェンからは谷と武山が逃げに加わったが、集団の大きさゆえにすぐに捕まる展開。2周目には谷が5名の逃げに再びジョインし、逃げ続けた。

7周目に入る頃には逃げと集団の差は10秒ほどに縮まり、集団前方で激しいアタックが繰り返された。武山が対応し、一時は岡も逃げに加わる場面があった。114名でスタートしたが、メイン集団は68名にまで絞られ、激しいアタック合戦が続く。8名の逃げに谷と武山が加わるが、8周途中で捕まる。

直後に金子宗平選手(群馬グリフィンレーシングチーム)が単独でアタック。個人タイムトライアルの現全日本チャンピオンで登坂にも強く、最も警戒すべき選手だった。森田叶夢選手(京都産業大学)が金子選手を追い、2名が先行する展開に。

9周目に入ると、集団は23名にまで減り、ブリッツェンでは谷、岡、アコスタ、菅野の4名が残る。森田選手が脱落し、金子選手が単独で30秒差をつけてファイナルラップへ。菅野が集団を牽引し金子選手を追うが、残り4キロ地点の上り坂でアコスタが仕事をしたが、チームは勝利を諦めなかった。

最終的に金子選手の逃げ切りが濃厚となり、2位・3位争いでは阿見寺俊哉選手(アヴニールサイクリング山梨)が集団の牽制の隙をついて飛び出す。岡も脚を温存しつつフィニッシュを目指し、集団スプリントで阿見寺選手に迫るも3位に終わった。チームとしては表彰台を確保し、アコスタも7位入賞と健闘。完走者は30名だった。

岡は「序盤は先手を打てて良かったが、後半は協調してくれるチームが少なく、最終局面で枚数が足りず自分で集団を牽引しなければならなかった。金子選手に追いつけなかったのは悔しいが、全日本選手権に向けて良い刺激になった」とコメント。鈴木監督も「全日本選手権へ向けて良い仕上がりになった」とチームの連携や若手の成長を評価した。

ブリッツェンはJプロツアーランキング1位を維持し、次戦・広島三原ロードレース(7月5日)、広島クリテリウム(7月6日)へ向けて弾みをつけた。全日本選手権への期待も高まる内容となった。

広島クリテリウム パブリックビューイング

7月6日(日)

12：45～14：45

クイーン洋菓子店 本店2F

〒320-0857 栃木県宇都宮市鶴田2丁目22-18

ゲスト解説
小野寺 玲選手

私たちは宇都宮ブリッツェンを応援しています。

MERIDA miyata / カンセキ / 下野新聞社 / Mitutoyo / NTT東日本 / FOODLIER / TOYOTA WOODYOU HOME / ローラン / 株式会社 ティーツーテクニカル / 日成メディカル / ナカニシ / 足利銀行 / ORES / 住まいは愉快だ 宇都宮 / フクダヘルシー / HONDA Honda Cars 栃木中央 / 鋼也ペダル / UDOKEN / NIPPON EXPRESS / 作新学院 / 栃木信用金庫 / とちテレ / 仲田総業株式会社 / GOKO human link corporation / TCB観光 / くにい矯正歯科 / HINO / (株)松本建設 / だちっぺとちぎ屋 JAグループ栃木 / TOCHIGISC / 関東自動車 / 宇都宮食販 / トヨタカローラ栃木 / SUBARU 栃木スバル自動車株式会社 / SHIMANO / BOA / Dexerials / 藤井産業 / Continental Home コンチネンタルホーム / たいらや / JB JARBIS / 帝商事株式會社 / KODAIRA ENTERPRISE / 多気山不動尊 / MIZUHO みずほ証券 / PÂTISSERIE QUEEN / こくみん共済 coop / 宇都宮塗料工業株式会社 / ヤマト運輸 / CDP シーデーピージャパン / CRTハウジング / K.K. 日本米穀粉食協会 / OKOO 横尾製作所 / Wellness / 株式会社 ツカサ精密 / momiya / UC. 宇都宮中央法律事務所 UTSUNOMIYA CHUO ATTORNEYS AT LAW / 栃木トヨペット / TAKATSUE MTB RESORT / 渡辺産業株式会社 / NIKKANE / UBC 宇都宮文化センター株式会社 / Fuji Logicargo / 有限会社 大草鉄工建設 / Sokan / PR TIMES / ISHIKAWA / ROOTS SPORTS JAPAN / 株式会社 景観プランニング / ライブガーデン / 日本生命 / 足利電装株式会社 / 天昇堂 / ゆめクリニック / HOTEIYA / 住友生命 Vitality / 税理士法人 児玉税経 / あぜみち / 税理士法人あさひ / YUU YUU WORLD 株式会社 ユーユーワールド / アトム建販株式会社 / (有)岸飯金工業所 / OLEA / クレハ合繊 / 山陸 / 稲見通建株式会社